

寶曆十二年午十二月廿九日

右渡船増賃年延願、五年目毎に願出、其時に帳付、前書之通ニ付略之、

(中ノ郷厩河岸船渡一件)乍、恐以書付御訴申上候  
一中之郷竹町船渡受負人次郎左衛門申上候、當廿四日奈良屋御役所江私被召呼、御受負仕罷在  
候舟渡之儀、御忠節申上せり御願之者罷出候ニ付、否御尋ニ付別紙之通返答書○返答指上申  
候、依之乍恐此段御訴申上候以上、

### 中之郷竹町舟渡

明和九年〇安永辰年八月廿七日

受負人 次郎左衛門印

中之郷竹町  
吉右門商店

次郎左衛門

〔本所深川御用留〕本所掛諸請負場所

一中之郷竹町船渡受負。

右船渡仕候助成ヲ以同所御上リ場入口矢來、自分入用ニ而仕、常ニ御上リ場掃除、見守等相勤申

候、

(朱書)

但安永年中、大川橋新規出來後ハ追々渡世薄く、永續無覺束候段相歎願出候ニ付、文化年中  
カ龜澤町御用屋敷地代、壹ヶ年仕切金九十六兩ヅ、上納之積ニ而右地代取立役被仰付候  
事、

〔伊呂波字類抄〕和雜物〔横人呼渡津筋〕ノタシノメ、荊州方舟 渡船已上同

〔續字彙補未集〕船又稱人呼渡津筋ノタシノメ、荊州升庵韻說

〔爾雅註疏〕水下釋物船大夫方舟、註併兩船、士特舟、註單船、

〔八雲御抄〕雜物船

わたし わたり